

# 岐阜県立岐阜農林高等学校

学校長 渡邊 千洋

学校住所 本巣郡北方町北方150 電話 058-324-1145

1 会議の名称 平成29年度 岐阜農林高等学校 第1回学校評議員会

2 会議の構成 委員 上田 善弘 国際園芸アカデミー学長  
神谷 令子 北方町民生委員  
木野村ともみ 北方町教育委員  
服部 里美 大垣共立銀行  
村瀬 里佳 本巣市教育委員

(委員名は五十音順)

学校側	渡邊 千洋	校長
	守屋 康晴	教頭
	山本 和志	教頭
	加藤 和宏	事務部長
	大矢 英樹	教諭 (教務主任)
	久松 一郎	教諭 (生徒指導主事)
	岡田 秀樹	教諭 (進路指導主事)
	小川 正樹	教諭 (農場長)

3 会議の目的 岐阜農林高校について地域を代表する方々から学校運営・改善のための意見をいただき、地域からの支援・協力のもと、地域に根ざし、特色と活力のある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 平成29年 6月12日(月) 13:00~15:00  
岐阜県立岐阜農林高等学校 会議室  
委員5名、学校側8名が出席

5 会議の概要

- ・学校評議員委嘱書交付
- ・教育活動の紹介(プロジェクト発表・意見発表)
- ・学校施設の見学
- ・岐阜農林高等学校の学校運営について
- ・意見交流

(1) テーマ : 学校施設見学と授業における生徒の活動等に関する感想  
生徒発表について ①プロジェクト発表  
②意見発表

意見1 落ち着いた雰囲気と恵まれた環境のもとで、生徒が生き生きと活動する姿が見られた。プロジェクト発表や意見発表をした生徒の姿も素晴らしかった。

意見2 生徒が、今授業で取り組んでいることの説明をしてくれた。その姿が自信に満ちており、そこに日々の授業への取組と積み重ねてきた学習の成果を感じた。

意見3 生徒の挨拶もしっかりとしたもので気持ちがよい。学習環境の整理整頓もできている。

また、今学習していることの目的と内容がしっかりと理解できているので、私達(評議員)への説明も、分かりやすくしっかりとできている。

意見4 実業高校の良い面が良く出ている。このことは、素晴らしいことであり大切なことである。生徒達には、目標をもってやって行こうとする意欲と能力が育成されている。研究テーマについて深めていくことができる生徒が育成されている。

意見5 実技を通してのアクティブラーニングの成果が出ている。質問に対する生徒の答えが「Yes」や「No」ではなく、広がりのある言葉で返ってくるのが素晴らしかった。

### (3) テーマ : 本校の教育活動について

質問1 基礎学力、その中でも計算力と文章作成能力は、農業にとっても必要不可欠なものである。どのように育成しているのか。

回答 入学時に数学に苦手意識を持っている生徒は多いが、数学の授業だけではなく、化学や農業科目などの教科を通じて、1年次より徐々に計算力を高めることができるようにしている。また、授業の中でも教科担任はプリントや教材の工夫をしている。

朝読書の時間を10分間日課に組み入れ、文章に触れる時間を設けている。それにより、読書の習慣が身に付いてきている。

質問2 朝読書による効果はあるか。また、図書館の利用頻度に変化はあるか。

回答 朝一番に読書をすることにより、1時間目の授業を落ち着いた状態で始めることができるようになった。また、図書館の貸し出し数も増加している。

意見1 「命を守る」という言葉を学校テーマとして前面に出していることは、大変素晴らしいことである。近隣に住む者として、毎日通学する生徒の姿を見ている。交通マナーも良く、横一列になって登校する姿も見ない。また、雨天時のカッパ着用率の高さ、挨拶の清々しさなども、地元住民として誇りに感じている。

質問3 大学への進学内訳とそのサポート(補習)はどのように行っているか。また、公務員志望生徒への対応はどのようにしているのか。

回答 大学への進学は推薦が多い。平成28年度の4年生大学へは、国公立大学が11名。私立大学は、名城大学や中部大学、長浜バイオ大学の農学関係への進学が多い。

進学補習は、年間を3期に分けて実施している。また、公務員志望者にはセミナーを案内し積極的な参加を促している、またインターンシップや個別面接指導なども実施している。

上記の内容に加え、学科ごとに実施している指導も充実している。

質問4 他の農業高校や、大学との連携はどのように行っているのか。

回答 他の農業高校とは、農業クラブでの活動を通して行われている。農業クラブには県や全国的な組織もあり、広域にわたって交流している。

大学との連携はSSHに関する活動を通じて、岐阜大学や長浜バイオ大学、中部大学などと交流している。

質問5 入学者の中で進路選択を間違ったと思う生徒はいるのか。

回答 生徒は、学科は違えども農業を学びたいと思う生徒が多い。卒業後の進路は、新たな興味や関心を持ち、農業以外の方面に進学する生徒はいる。

## 6 会議のまとめ

今回は、農場を中心に見てもらい、学校経営計画および分掌の方針と取組を理解していただきました。また、本校の教育の方向を示唆する貴重な提言をいただきました。

今後はいただいたご意見を生かし、生徒の主体的な学習意欲と姿勢をより伸長するとともに、地域との連携も更に深めることを、生徒、教職員、保護者が一体となって活力ある学校づくりに邁進したい。